

## 報告 MELON 緑・食部会 「食と農」について学ぶ

7月24日(水)午後2時からフォレスト仙台5F会議室で緑・食部会の学習会を開催しました。参加は12名でした。

はじめに、みやぎ教育文化センター中森孜郎所長から「子どもと共に学ぶ総合学習『食と農』」発行にあたって説明を受けました。今回は教育実践記録6つの中から、北仙台小学校教諭手代木彰雄先生の総合的な学習の時間の取り組み「わたしたちのくらしとものを作る仕事」について学習しました。これは5つの指導計画(種をまいて大豆や野菜を育てる 収穫した野菜を食べる 大豆について調べる 豆腐を作る 農家の見学)に基づいて、一人ひとりが課題を持って研究発表するものです。当日は実

践のようすを掲載した学校通信や、子どもたちがまとめた資料を見ながら学習しました。(もっと詳しい内容を知りたい方は、みやぎ教育文化センターで本も販売しております。)



### 「アリですか？ そりゃアマイゼ！」

DIY店の園芸コーナーに行くと、あり退治のスプレーや薬品のようなものがたくさんあることに驚きます。いつからアリは害虫になったのでしょうか？「だってシロアリは家を食べてしまうんでしょう。」なんて返事が返ってくるかもしれません。実はシロアリとアリは別の仲間なのです。アリはハチの仲間なのですが、シロアリはゴキブリに近い仲間らしいのです。「ありり？」などと思っている方はもう少し詳しく調べてみてください。その生態がずいぶん違うはずですよ。ですから、熱心な園芸家でもなければ「うわっ。アリだ。」とスプレー片手に追いかける必要はないのです。むしろ、アリの生活はいろいろな動植物ととても密接に関わっていて、強力な薬品などを使ってアリの追い出すことはその生態系を狂わせてしまうことにもなります。



これまでアリのすみかだったところに家を建て、甘いものを放置している人間がアリを「呼んで」しまっていると考えてください。

まずは、高家博茂・文、横内襄・絵「ありのごちそう」(新日本出版社)などを子どもと一緒に読みましょう。物語仕立てですから、子どもの顔を見ながら、怖がってみたり、急いでみたり、ゆっくりしてみたりすれば「技アリ!」。ついでに、わざわざ縁側や庭に出てアリの巣でも探しましょう。アスファルト道路の端っこ。排水溝との間の小さな穴から出入りしていることだってありますよ。

そして、夜、子どもが寝静まったら、レイ・ノースの「アリと人間」(晶文社)を静かに開きます。

アリは広く分布していますがシロアリはほとんどの種が熱帯に見られます。日本でも北海道には一種類しかいないそうです。もし地球の温暖化がこのまま進めば、シロアリが幅をきかせる地域も広がるということでしょう。